

公益財団法人静岡県農業振興公社

理事長 大谷 徳生 様

### 令和2年度農地中間管理事業評価委員会報告書

令和2年5月、書面評価により実施した令和2年度農地中間管理事業評価委員会における評価結果について、下記のとおり報告します。

評価項目の括弧内のアルファベットは、各委員の評価（A, B, Cの3段階評価）です。

#### 記

#### 1 令和元年度農地バンク事業の実績について（B, B, B, B）

- ・事業開始以降、初めて実績面積が減少したが、なおも全国的にみて高水準である。本県特有の茶園、果樹という永年作物が着実に増加し、また、本県での特色ある野菜の大幅増は産地維持・拡大に寄与するもので、今後も期待したい。
- ・推進体制や取り組み自体には問題ないと考えているが、目標面積と比べて実績はかなり小さかったため、このような評価（B）となった。実績を上げるには水田の流動化に力を入れるのがよいように思う。ただし静岡県は水田が少ないので実際は難しいかもしれない。
- ・貸付目標 1,200ha に対して、実績は 609.6ha (51%) であり、さらなる努力が必要。中遠地域で H30 年 412ha に対して、R 元年度 125ha と大きく減少し、また作物別では H30 年度に対して R 元年度は水稲が 207ha 減少している。地域によりあるいは作物により集積の限界に達していることはないのか？ 人・農地プランの実質化により、R2 年度は増加する見込とのことなので、R2 年度の実績に期待する。
- ・野菜は供給過多状態で、これ以上農地がうまく流通するかわからない。目標値自体を見直す必要がありそう。

#### 2 農地バンク事業の推進体制について（A, A, A, A）

- ・推進体制は今後、JAの円滑化事業と統合したので従来の推進体制の上に、本県JAの特性を加味して体制整備に努められたい。
- ・推進体制はこれでよいと考える。農地中間管理機構関連農地整備事業は茶園が主体だが、水田でも活用できるようだと実績も上がるかもしれない。
- ・人・農地プランの実質化に向けた取組を評価する。このようなプランは得てして総論賛成・各論反対という流れになりやすいので、事業担当駐在の出し手（農地所有者）とのコミュニケーション、意思疎通、共通理解が必須である。

#### 3 農地バンク事業の推進方法について（A, A, A, A）

- ・推進対象を集落単位とするのは、規模のメリットを追求する水稲、飼料作物等には有効だが、本県の農業は異なる。産地の維持・拡大こそが現在の本県の農業の最大で、最終の目標であり、JA生産部会を推進対象とする公社の取組に期待する。
- ・推進方法に大きな問題はない。JAの生産部会単位での人・農地プランの実質化は、現場の実態を踏まえたよい方法だと考える。
- ・人・農地プラン実質化のために、種々の方法にて推進されている。
- ・農地が農業をやりたい若者に渡りにくい状況は変わらない。地域が投資と考えて新規の方に良い農地が貸されるような仕組みが必要。

#### 4 その他

- ・円滑化事業が機構に付け替えられるに伴い、地代の徴収、支払といった管理作業が増えることが予想され、それに対応できる体制を整えていく必要があると考える（地代の支払いへの対応、地主の死亡による振込口座の変更・把握はかなりの負担になるのではないだろうか）。
- ・貸付目標 1,200ha に達成率が届いていないが、そもそも 1,200ha の根拠はどう算出されたのか？ 人・農地プランは 5 年後～10 年後の完成予想であろうが、1 年でも早く各地区のプランが作成されることを望む。本プラン（人・農地プラン）を作成するのに、実質的に決定権・指導力を持っているのは誰か。責任のなすりあいでは決定することはできない。現在どの程度、人・農地プランが具体的になっているのか見えない。
- ・農地の評価をしてはどうでしょうか？

令和 2 年 6 月 26 日

令和2年度農地中間管理事業評価委員会

委員長 木宮 健二